

羽衣国際大学 令和三年度入学式 式辞

心地よく澄み渡る春風に包まれて、本日ここに羽衣国際大学令和三年度入学式を挙行できますことは、本学にとって大きな慶びであります。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。羽衣国際大学の教職員を代表して、皆さんのご入学を心よりお祝い申し上げます。

また新入生の保護者やご家族の皆様におかれましては、ご子息が本日、大学入学という人生の晴れの日を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。本来は皆様とともに新入生の大学生活のスタートをお祝いすべきところですが、現下のウイルス禍に鑑み、本年はご来賓もお招きせず新入生と大学教職員のみで、本式を執り行う事と致しました。ここに改めてお詫び致しますとともに、ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

さて本学は、古く1923年(大正12年)に島村育人先生らによって設立された、羽衣高等女学校を起源とする大学であり、おおよそ一世紀の歴史をもっております。戦後、羽衣高等女学校は羽衣学園中学校・高等学校となり、また1964年(昭和39年)には羽衣学園短期大学が設立され、この南大阪泉州の地で、一貫して女子教育を担って参りました。本学は2002年に羽衣学園短期大学を一部改組転換して、男女共学の四年制大学として設置されました。現在は現代社会学部2学科、人間生活学部2学科、計2学部4学科を擁する大学となっています。

羽衣学園の建学の精神は、愛真教育に基づく「自由・自主・自律・個性尊重の人間教育」です。創立者である島村育人先生は第1期の入学生に次の言葉を贈られました。「あなたが本校に在学なさることは、本校の名誉であり

ます」。私もまずこの言葉を新入生の皆さんに贈りたいと思います。

昨年来の新型コロナウイルスの蔓延により、日本のみならず全世界が不安と停滞に包まれています。新入生の皆さんもコロナ禍での進学準備となり、大変な1年を過ごされたことと思います。特に昨年度高校三年生であった新入生の皆さんは、家庭での自習や遠隔授業への対応、諸行事の中止や延期など様々制約に加え、今春よりの新しい入試制度での進学準備に追われ、ご苦労されたことと思います。皆さんの努力が今ここに結実したものとなっていることを願っています。

また昨年来のコロナ禍では過去二回の緊急事態宣言が発出されましたが、明日から大阪市他の地域には「まん延防止等重点措置」がとられる事となり、従来にも増して感染予防の徹底が図られることとなります。本学においても引き続き感染防止にあたりますが、新入生の皆さんも、多人数での会食等はせず、マスク着用や手指の消毒を徹底して頂きますようお願い致します。このようなコロナ禍で、新入生の皆さんは学生生活をおくることとなります。大学生としての学生生活のみならず、昨年と同様外食や旅行の制限など、一市民としての社会生活も制約を受けることとなるでしょう。このような社会状況においてはそうした事も致し方ないことと思います。

最近「感染予防が優先か、経済を優先するのか」という議論がなされることも多いようです。感染予防をすると、飲食店や小売業、旅行業などが大きなダメージを受ける、感染予防も大事だが、経済をまわしていくことも考えるべきだ。」という議論です。ここでは「感染予防」と「経済」とが対立的で両立しないもののように使われています。経済を学んだ人間の一人として、

このような「経済」という言葉の使い方には違和感を禁じえません。なぜか
というと、そもそも「経済」はこのような意味で使われるべき言葉ではない
からです。

高校で経済について学ぶ機会があった人はご存じだと思いますが、「経済」
という言葉は「経世済民(けいせいさいみん)」という言葉に由来しています。
ここで「経世」とは世の中を治めていくこと、「済民」とは人々の暮らしをよ
くしていくことを意味しています。つまり「経世済民」とは人々が豊かにな
るよう世の中をまとめていく、という意味です。それが略されたのが、「経
済」という言葉なのです。とすれば「経済」というのは広く人々を豊かにす
ること意味していますので、感染予防と対立的に考えるものではなく、むしろ
感染予防対策や医療体制の充実など、人々の健康や安全を守ることも含ん
だ言葉と考えるべきなのです。

なぜ今、このように「経済」という言葉にこだわるのか、という理由か
あります。それは現在世界は従来にもまして、本来の意味での「経済」を考
えなければならない状況にあるからです。

皆さんもご存じの通り、世界は気候変動など深刻な環境問題に直面してい
ます。その解決に向むけ、例えば温暖化を防止するため温暖化ガス排出量の
制限を目標とした、いわゆる「カーボンニュートラル」を実現すべく世界は
動き出しています。地球の温暖化の原因となる二酸化炭素等の排出量と除去
量を差し引きゼロとすることで、結果として気温の上昇を抑えていくとい
うことです。換言すれば二酸化炭素等の排出量の削減を意識しないで、経済活
動はできない状況になりつつあるのです。このような事は従来の経済活動で
は考える必要のなかったことです。これまで人類は、エネルギー制約や環境

への負荷を考えることなく、大量生産・大量消費を行い、安価で手軽な商品やサービスの生産や提供を享受してきました。しかしこのような事を続けていると人間生活の基盤である自然環境が破壊され、生産や消費が制限されるどころか、人々の安全すら危うくなる状況にあることがわかってきました。今の生産や消費のスタイルが維持できないだけでなく、生命そのものが危険にさらされるのです。

これは目先の利益や売上を追求するのではなく、真の豊かさを実現するにはどうすればよいかという、本来の意味での「経済」の問題です。また地球環境問題は現在の問題というより将来世代がいかに暮らせるかという、持続可能性、サステナビリティの問題でもあります。換言すれば、「今」「ここで」という思考を越えて、「将来」「どこでも」と考え実行する、思考と行動が求められているのです。今ここにいる自分のことだけではなく、将来の、しかも行ったこともないような場所での人々の暮らしにも思いを馳せ、行動を起こす事が求められているのです。

このような状況において、社会で求められる人材も変わってきます。これまでは、「今」「ここで」活躍できる人材が求められてきました。役割が既に与えられ、その中でいかに効率的、合理的に行動するかで評価されてきた時代であったといえるかもしれません。しかし皆さんが活躍するこれからの時代はそうではありません。こうした社会の激動の中で、人の作った尺度で測られるのではなく、自分はどのように行動するのかを自分で考え、自分で行動して、結果にむすびつけていくような人材が求められ、評価されることになると思います。

これまで、学校での勉強はあまり得意ではなかった、「偏差値」はたいし

たことはなかった、人と比べて大した記録はもっていない、だから自分はたいしたことはない、などと思わないでください。これからはそうした「人の作った基準」で自分を測るのではなく、自分自身が本当に頑張ったのかどうかで自分をみるようにしてください。例えば、新しい資格に挑戦する、状況が許せば海外に出てみる、スポーツで自己新を目指す、自分でできる範囲でボランティア活動に取り組むなど、「偏差値」や「大会記録」などでははかれない活動にも、本来の自分の力を発揮する可能性があることを信じてください。そして本学での4年間を、専門分野の学修はもちろん、自分の可能性を試す場であり時間として頂きたいのです。大学以降、皆さんが生き生きと能力を発揮することによって、自分自身の人生を切り開くと同時に、これからの新しい「経済」の発展にも貢献するものと思います。

私たち羽衣学園の「羽衣」はもともとは地名であり、日本各地にある羽衣伝説に由来するものです。しかし「羽衣」の「羽」は、ここでお伝えしたようなことにチャレンジする「飛躍の羽」「成長の羽」そして「挑戦の羽」となることを願っています。そして私たち羽衣国際大学教職員は、それを支えていくことに全力を尽くします。

皆さんが本学入学を新しい自分の出発点とし、これからの社会や経済に貢献できる人材として成長されることを願って、入学式の式辞と致します。

令和三年四月四日

羽衣国際大学学長 吉村 宗隆